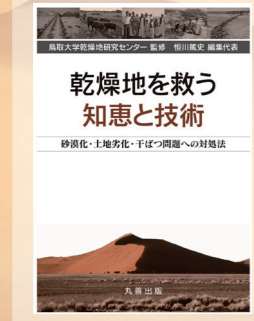


沙漠学とは「砂漠を含む乾燥地の環境を知り、そこに息づく生命の謎を解明し、さらに人々の社会と暮らしを学び、それら全てを守る」学問。本書では日本沙漠学会が総力を結集し、沙漠学に関する知見約220項目を見開きで解説。SDGs時代における「沙漠学」の決定版となる1冊。



関連書籍



乾燥地を救う知恵と技術
砂漠化・土地劣化・干ばつ問題への対処法
鳥取大学乾燥地研究センター 監修
恒川 篤史 編集代表
A5判 158頁
定価(本体 3,400円 + 税)
ISBN978-4-621-08753-4



地球温暖化の事典
独立行政法人 国立環境研究所
地球環境研究センター 編著
A5判 452頁
定価(本体 4,800円 + 税)
ISBN978-4-621-08660-5

丸善出版株式会社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-17 神田神保町ビル 書籍営業部 TEL(03)3512-3256 FAX(03)3512-3270
https://www.maruzen-publishing.co.jp

丸善出版株式会社行 FAX 03-3512-3270

沙漠学事典	2020年7月刊行	予価(本体 22,000円 + 税) ISBN978-4-621-30517-1	冊
乾燥地を救う知恵と技術		定価(本体 3,400円 + 税) ISBN978-4-621-08753-4	冊
地球温暖化の事典		定価(本体 4,800円 + 税) ISBN978-4-621-08660-5	冊
お名前			
ご住所 〒			
TEL			

取扱店

※ご注文をいただいた個人情報は、書店、取次(流通)・弊社間で商品手配の目的に利用させていただきます。

日本沙漠学会設立30年記念図書

沙漠学に関する約220項目を見開きで解説

沙漠学事典



日本沙漠学会 編

A5判・524頁

予価(本体 22,000円 + 税) ISBN:978-4-621-30517-1



- 編集代表**
吉川 賢 日本沙漠学会会長 岡山大学名誉教授
- 編集幹事**
石川 祐一 秋田県立大学
- 副編集幹事**
鳥田 沢彦 東京農業大学
- 編集顧問**
安部 征雄 日本沙漠学会元会長 筑波大学名誉教授
小島 紀徳 日本沙漠学会前会長 マクロエンジニアリング研究機構
豊田 裕道 日本沙漠学会元会長 東京農業大学

- 編集委員**
石山 俊 国立民族学博物館
川端 良子 東京農工大学
窪田 順平 人間文化研究機構
児玉 香菜子 千葉大学
小長谷 有紀 日本学術振興会
齊藤 忠臣 鳥取大学
酒井 裕司 工学院大学
鈴木 伸治 東京農業大学
田島 淳 東京農業大学
橘 隆一 東京農業大学
平田 昌弘 帯広畜産大学
藤巻 晴行 鳥取大学
三木 直子 岡山大学
森尾 貴広 筑波大学
山 典和 鳥取大学
渡 邊 文 東京農業大学

- 編集協力**
入江 光輝 宮崎大学
矢沢 勇樹 日本沙漠学会 30周年記念実行委員長 千葉工業大学
渡 邊 三津子 奈良女子大学



最新情報・詳細は
こちらから！
丸善出版ホームページへ

丸善出版

2020年5月末日現在、五十音順

tkp.20.A0D

収載項目一覧

1章 砂漠とは

乾燥地と砂漠 / 地表面構成物からみた砂漠の分類 / 砂漠の成因－(大気循環 / 海洋・地形) / 世界の砂漠地図 / 東アジアの砂漠－(タクラマカン砂漠 / テンゲル砂漠 / ムウス砂地 / その他の砂漠) / 南・中央・西アジアの砂漠－(カヴィール砂漠 / ルート砂漠 / カラクム砂漠 / キジルクム砂漠 / サルイシコトラウ砂漠 / タール砂漠 / シリア砂漠 / ネフド砂漠 / ルブアルハリ砂漠 / その他の砂漠) / アフリカの砂漠－(サハラ砂漠 / ナミブ砂漠 / カラハリ砂漠 / その他の砂漠) / 南北アメリカの砂漠－(グレートベースン砂漠 / モハーヴェ砂漠 / ソノラ砂漠 / アタカマ砂漠 / その他の砂漠) / オーストラリアの砂漠－(オーストラリアの砂漠 2大砂漠 / 中西部のその他の砂漠 / 中央部のその他の砂漠) / コラム:極環境の砂漠 月・火星の砂漠

2章 砂漠の自然環境

気温・降水 / 蒸発散 / 風 / 砂丘と風紋 / 侵食地形と堆積地形 / 生物による地形 / 砂漠土壌の種類と分布 / 砂漠土壌の特性 / 自然塩湖・自然塩類集積地 / 世界の主な大河川 / ワジと洪水 / 土壌水分量 / 風速の測定 / 飛砂の測定 / リモートセンシング / ドローン / 植生指数 / コラム:大気鉛直構造を測る

3章 乾燥地の生物

乾燥地の植生分布 / 乾燥地の植物群落構造と多様性, 生態系機能 / 乾燥地の特徴的な植物－(一年生植物 / 多年生草本 / 低木 / 多肉植物) / 乾燥地植物と火事 / 乾燥地植物と砂の移動 / 乾燥地植物と菌根菌 / 乾燥地植物の物質生産 / 乾燥ストレス耐性 / 塩ストレス耐性 / 光ストレス耐性 / 動物の進化・系統 / 乾燥地の昆虫 / 乾燥地の爬虫類 / 乾燥地の鳥－(生態と適応 / 種類) / 乾燥地の哺乳類 / 乾燥地の動物－(形態・生理的適応 / 生態的適応) / 草食獣と草原の共進化 / 砂漠の微生物 / コラム:アレロパシー

4章 砂漠の生活と文化

民族・言語 / 文字－(中央アジアの文字―系統と類型 / 西夏文字 / ブラーフミー文字 / チベット文字 / シベ(錫伯)文字) / 水や土地の利用 古代エジプト文明 / メソポタミア / インダス文明を支えた水利 / インド北西部の畜力揚水井戸 / 植民地支配と独立 / ソ連とその崩壊、社会主義 / シヤマニズム / アニミズム / イスラーム / キリスト教 / 仏教 / シルクロード / サハラ交易 / 狩猟採集－(アフリカ / オーストラリア) / オアシス－(アフリカ / 中央アジア / 西アジア～中央アジア) / 衣－(西アジア / 中央アジア・モンゴル) / 食－(コムギ / 乳 / 茶 / ナツヤメシ / マメ科植物の食品利用 / アラビアンナイトとコーヒー / 乾燥地の魚食 / オアシス:中央アジア / オアシス:アフリカ / 狩猟採集民:アフリカ / 狩猟採集民:オーストラリア) / 住－(中東 / サハラ砂漠とサハラ南縁乾燥地帯の住まい / モンゴル高原の住まい) 口承文芸－(中央アジア / パキスタン) / アフリカの砂漠と文学の営み / 口承文芸・文学 モンゴル / アフリカの岩絵 / モンゴルの岩絵 野生動物と日常風景 / モンゴルの岩絵 遊牧民の死生観・文化アイデンティティ / ユーラシアの壁画 / 染色 インド / 刺繍 カザフ / 音楽 サン / 音楽 パキスタン / コラム:(砂漠の記憶―映画『イングリッシュペイシエント』/ モンゴル遊牧民の物質文化―モノは情報 / 家畜の個体識別 / 「砂漠」を表す文字)

5章 砂漠の資源と経済活動

概観:自然資源と再生可能資源・鉱物 / 石油 / 塩 / 地下水 / 化石水 / 太陽電池 / 再生可能エネルギー(太陽熱 / 風力) / 生物資源とその保全 / 乾燥地の水産資源管理 / 経済・産業構造 / 都市 / 人口の動態 / 灌漑農業 / 集水 / 節水技術 / ソーラーシェアリング / 作物の種類と特徴 / 穀物 / 商品作物と高付加価値化 / 微細藻類 / 林業 / アグロフォレストリー / バイオマス / 乾燥地の牧畜とは / 遊牧システム / 家畜の種類と特徴 / 牧畜－(ウシ / ヒツジ・ヤギ / ラクダ / ウマ) / 砂漠に生きる代表的なウマ / 家畜の利用－(肉 / 乳 / 毛 / 糞 / 働力) / 牧草地管理 / 工・鉱業 / 交易・貿易 / イスラーム金融 / 砂漠への投資 / 観光産業 / エコツーリズム / 乾燥地における第6次産業 / 情報通信技術のインパクト / コラム:世界の野生種トマトの分布

6章 砂漠化とその対策

砂漠化の定義 / 砂漠化の広がり / 砂漠化の人為要因 / 砂漠化の気象的要因 / 砂漠化と土壌侵食－(風食 / 水食) / 砂漠化と土壌劣化－(喪失 / 塩類化) / 砂漠化と植生劣化－(農地 / 草地 / 森林) / 沙漠化の社会的影響 生活、文化、社会構造 / 砂漠化の経済的影響－(農業 / 林業 / 牧畜) / 砂漠化による越境汚染 黄砂, PM2.5 / 砂漠化と国際河川問題 / 砂漠化と大規模灌漑農業 / 砂漠化とゾド / 砂漠化対処条約 / 気候変動枠組条約 / 生物多様性条約 / 砂漠とSDGs / 国際連合環境計画 (UNEP) による取組 / 国際協力機構 (JICA) の取組 / 砂漠化防止に取り組む国際研究機関 / 砂漠化防止に取り組む NGO、NPO / 防風林 / 防砂－(草方格 / マルチ) / 環境修復－(緑化 / 土壌改良 / 除塩) / 東アジアでの砂漠化の現状と砂漠化対策技術 / 南・中央・西アジアでの砂漠化の現状と砂漠化対策技術 / アフリカでの砂漠化の現状と砂漠化対策技術 / オーストラリアでの砂漠化の現状と砂漠化対策技術 / 緑化の功罪 / 砂漠化対策技術の課題 / 人材養成 / 支援システムの改善 / 在来知と地域資源に根ざす対処技術

おわりに / 文献一覧 / 索引

発刊の辞

日本沙漠学会の設立30年記念事業として『沙漠学事典』が企画され、3年に及ぶ複雑多な編集業務を成し遂げ、この度、発刊の運びとなったこと、喜びに堪えません。本書は、20周年を機に発刊された『沙漠の事典』とコンセプトはほとんど変わりませんが、砂漠・乾燥地域の学術研究の成果と社会における砂漠・乾燥地に関する情報の認知度の向上を反映させるべく、一から項目立てを行い、発刊された労作です。将来的には、本書の英語版の発刊を計画しており、日本の「沙漠学」の世界へのアピールも目指しております。

砂漠のない国に「日本沙漠学会」があり、学術大会、分科会講演会、シンポジウムを毎年開催し、学会誌も年4回発行しています。また、その学会が国際的な砂漠技術に関する会議 (International Conference on Arid Land; ICAL, Desert Technology; DT) を定期的に主導し、そして『沙漠学事典』を発刊する。グローバル化され、情報や知見が学問領域を超えて深め合う世の中とはいえ、その存在や活動は不思議がられることがあります。しかし、世界の陸地面積の約3分の1を占める砂漠・乾燥地の自然環境の状況や人間活動によって引き起こされるさまざまな事象は巡り巡って全世界に影響を及ぼすことは明らかな科学的根拠として証明されています。したがって、これらの地球規模の課題に取り組める環境にある国、組織、人々が国境や地域や学問領域を超え、我がこととして係わらねばならない時代になっていると考えられます。

沙漠学の対象地域における研究は、一般に自然条件が厳しく、立地条件も悪いところが多く、現場を知るためのデータ取得が容易でないケースが多いという課題がありました。が、昨今の科学技術の進歩によって、広範囲に、迅速に、正確に、長期的・連続的に各種の情報が得られる手法が開発され、またそれらの処理や解析・分析手法も飛躍的に発展しました。沙漠学はまだまだ発展途上ですので、これらのメリットを積極的に活用して、新しい知見を解明していきたいものです。特に、ひと昔、ふた昔前よりは格段に進歩した研究手法を習得し、実践的な活動を担う若者層や壮年層の新技術への対応力を活かしてもらい新たな次元の成果づくりに挑戦して頂くとき、この『沙漠学事典』が一助になればと期待します。

日本沙漠学会が目指している目標の1つに「文理融合」があります。関連する個々の専門分野の知見の解明とともに異なる分野との交流から生じる新たな学問分野を創造することは魅力的な試みです。また、「融合」というキーワードは、砂漠・乾燥地の興味や課題の対応を考えるにあたって、伝統的技術と先端技術の融合、自然環境としての乾燥地と湿潤地の知見の融合、異なる地域の歴史や文化に関する事柄の融合などへ拡張することも可能と考えられます。これらの融合は、多くの関係者が心掛けているテーマであるにもかかわらず、そのはっきりした成果は目に見えてこないというのが実態です。『沙漠学事典』のページをめくりながらさまざまなパターンの融合を考え、実践してみてはいかがでしょう。

2020年5月

日本沙漠学会元会長・筑波大学名誉教授 **安部 征雄**

執筆者一覧			
安部 豊	神奈川県自然環境保全センター	郡司 みさお	片倉もとこ記念沙漠文化財団
荒川 慎太郎	東京外国語大学	小泉 龍人	メソポタミア考古学教育研究所
荒戸 裕之	秋田大学	小磯 学	神戸山手大学
飯嶋 秀治	九州大学	児倉 徳和	東京外国語大学
伊ヶ崎 健大	国際農林水産業研究センター	小島 紀徳	マクロエンジニアリング研究機構
池田 良一	国際農林業協働協会	小林 維男	NTC インターナショナル(株)
池谷 和信	国立民族学博物館	斎藤 純	拓殖大学
石井 智美	酪農学園大学	齊藤 忠臣	筑波大学
石川 祐一	秋田県立大学	齊藤 昌宏	元 森林研究・整備機構 森林総合研究所
石塚 正秀	香川大学	坂井 弘紀	和光大学
石浜 裕子	マダレブ文学研究者	酒井 裕司	工学院大学
石本 雄大	青森公立大学	坂田 隆児	石巻専修大学
石山 俊	国立民族学博物館	佐々木 圭	岡山大学
一條 洋子	東京農工大学	佐川 徹	慶應義塾大学
伊藤 健彦	鳥取大学	佐々木 雄大	横浜国立大学
稲井 啓之	日本学術振興会	真田 篤史	東京農業大学
福井 省吾	環境科学技術研究所	サランゲレル	中国中央民族大学
今村 薫	名古屋学院大学	サランゴフ	(株)カイクリエイツ
入江 光輝	宮崎大学	塩谷 哲	筑波大学
岩尾 一史	龍谷大学	塩谷 昌史	大阪市立大学
岩永 史子	鳥取大学	實野 雅太	東京農業大学
上田 恵介	立教大学名誉教授	篠田 雅人	名古屋大学
上原 有恒	(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル	篠原 卓	東京農業大学
上山 一	釧路公立大学	島田 沢彦	東京農業大学
牛木 久雄	元 国際協力事業団	清水 克之	鳥取大学
ウスビ・サコ	京都精華大学	周 建中	東京成徳大学
遠藤 仁	総合人間文化研究推進センター	哲平 仁志	広島修道大学
大澤 孝	大阪大学	真常 晶子	京都大学
大手 信人	京都大学	菅 沼 秀	国立民族学博物館
大沼 洋康	国際耕種(株)	菅野 陽	日本森林技術協会
岡田 保良	国士館大学	菅野 陽	Kannotextile
荻原 裕敏	東京大学	杉原 創	東京農工大学
小口 千明	埼玉大学	杉本 英夫	(株)大林組
小田あゆみ	信州大学	鈴木 伸治	東京農業大学
柏木 健一	筑波大学	関山 絢子	東京農業大学
金谷 美和	国際ファッション専門職大学	ソング	千葉大学
鎌田 知也	農業・食品産業技術総合研究機構	高橋 新平	東京農業大学
川田 清和	筑波大学	高宮 いづみ	近畿大学
河田 尚子	片倉もとこ記念沙漠文化財団	田島 淳	東京農業大学
川端 良子	東京農工大学	橋 隆一	東京農業大学
川村 健介	国際農林水産業研究センター	田中 一樹	摂南大学
喜田川たまき	筑波大学	谷 武士	鳥取大学
北中 真人	ササカワ・アフリカ財団	田淵 俊	玉川大学
北村 義信	鳥取大学名誉教授	地 徹朗	名古屋外国語大学
衣笠 利彦	鳥取大学	土屋 一樹	ジェトロ・アジア経済研究所
黒崎 泰典	鳥取大学	恒川 篤史	鳥取大学
		坪 充	鳥取大学
		杜 明遠	農業・食品産業技術総合研究機構

※2020年5月末日現在、五十音順